

分断と陰謀論のアメリカ —ポスト・トランプの時代に

リモート開催
〈Zoom〉
会場参加も可能

講師：森本 あんり（国際基督教大学教授）

アメリカは新政権が発足して国際社会への復帰を果たしたように見える。しかし、世界はアメリカの自己理解に不信を抱き続けており、国内では増大する格差が人びとを分断し、理解しがたい陰謀論へと追いやっている。こうした現状をアメリカ史に固有の背景から読み直し、キリスト教的な理念の世俗化がもたらす影響と、民主主義の構造的な脆弱さについて考えるための手がかりを得たい。

日時 2021年 **5月22日**（土）13:30 ~ 15:50

参加方法 リモート参加 または、関西セミナーハウス「別館」来場（会場は申込先着10名まで）

参加費 リモート/ 来館共通 1,000 円 学生 500 円 [リモートは振込で（振込先裏面）]

講師は、インターネットを通して講演し、話し合いに参加します。参加者は、次のいずれかの方法で参加できます。

[リモート参加] パソコンかスマートフォンを利用して、任意の場所でネットを通して参加することができます。申し込みの際にメールアドレスをお知らせください。メールアドレスあてにZoomの招待状をお送りします。

[来館参加] 関西セミナーハウスの会場に集まり、大画面の映像とスピーカーを通して講演を聞き、話し合いに参加します。



森本 あんり もりもと あんり

1956年神奈川県生まれ。国際基督教大学、東京神学大学、プリンストン神学大学を修了(Ph.D. 組織神学)。専攻は神学・宗教学・アメリカ研究。国際基督教大学人文科学科教授、2012-2020年学務副学長。プリンストン神学大学とバークレー連合神学大学院で客員教授を務める。近著に『アメリカ的理念の身体』（創文社）、『反知性主義』（新潮選書）、『宗教国家アメリカのふしぎな論理』（NHK出版新書）、『異端の時代』（岩波新書）、『キリスト教でたどるアメリカ史』（角川ソフィア文庫）、『不寛容論』（新潮選書）など。